

キャリア形成支援教育国際フォーラム
日本におけるコーオペ教育の可能性
—大学教育と新卒採用の新展開—

問題提起「コーオペ教育がもたらす可能性」

大学の観点

2010.1.27



松高 政

問題提起① どうすれば学生は勉強するようになるのか？

||

大学(学校)の役割は「学生に勉強させること」

→力をつけさせる

では、どうやって？

では、逆に、何で勉強しないのか？



「職業的なレリバンス」が求められている

教育内容の職業的レリバンスとは、個々の分野が中心的に取り上げる事象に関する理論や概念、方法論等が、実際の仕事場面においていかなる有用性を発揮しうるかを意味している。

職業的レリバンスをもちうる教育内容の範囲は、きわめて実践的なノウハウや手法といった側面から、当該分野のこれまでの発展・変遷の過程および将来的課題に関する知識という側面、さらには普遍性と抽象性の高い哲学・理念という側面まで、大きな振幅をもつ。

こうした各分野の教育内容の全体像が、具体的な仕事場面とどのような関連を持ち、どのように活かされるかについて明示的に教授指導されることを、ここでは職業的レリバンスとみなしている。

◆ 学士課程教育の意味

(中教審「学士課程教育の構築にむけて」)

- 大学教育で何が身についたのか？
- 何ができるようになったのか？
- 獲得すべき能力の具体的明示とその評価

⇒「学習成果(Learning outcomes)」の明示

◆ 学習成果(の獲得に至る道筋も含めて)に関する、的確かつ丁寧な説明

アウトカム重視のアプローチ

学習

何を、どのようにすれば、
学生ができるようになるのか



期待される学習効果

学生ができるように
ならなければならないこと



評価

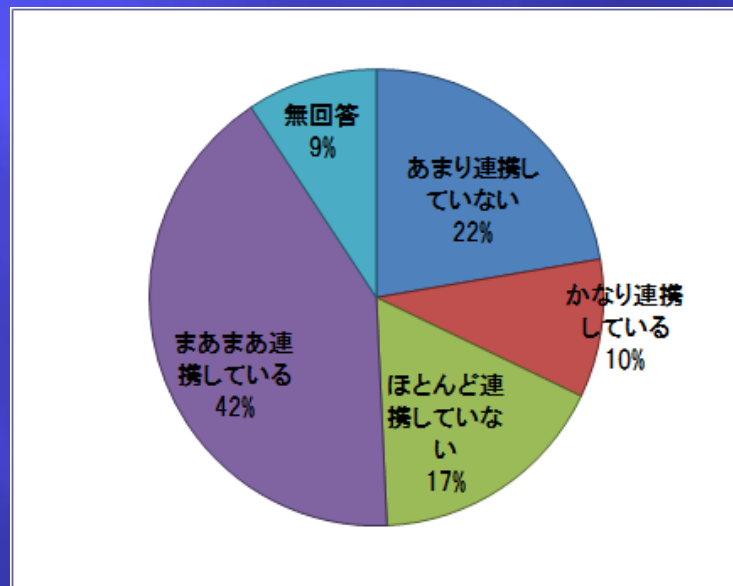
学生がどれだけできるように
なったか

【問題提起】 大学の観点

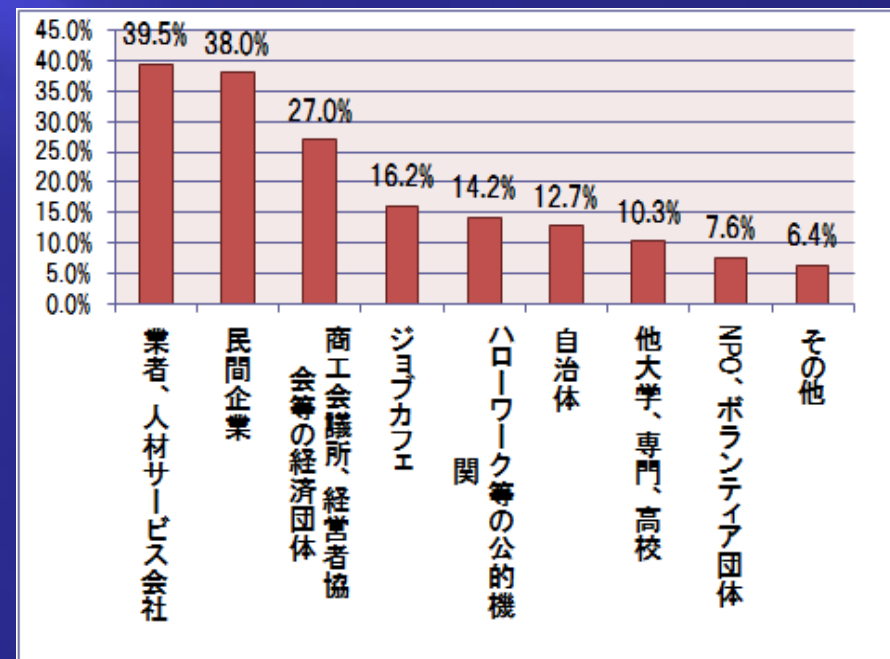
- 大学“だけ”の力では限界。FD、SDでも決できない。
- 学生を社会と“つなげる”、そのために大学が社会と“つながる”。
- 大学の教育力をあげるために、大学外の教育資源を積極的に活用。

コーオプ教育の可能性

【キャリア形成支援における外部機関(企業、公共機関等)との連携】

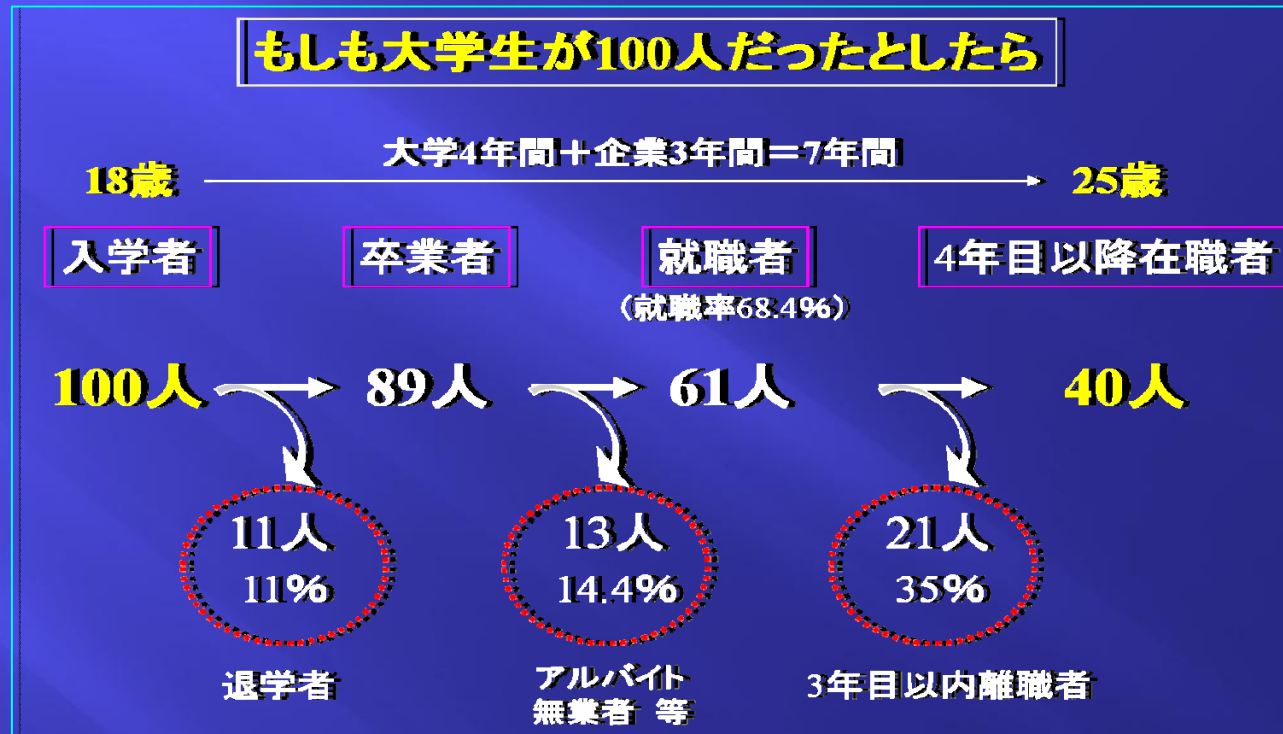


『キャリア形成支援/就職支援についての調査結果報告書』
2009年3月(経済産業省/ジョブカフェ・サポートセンター)



問題提起② 垣根を越えての人材育成連携

若年層の人材をどのように育成するのか？ = 社会全体の課題

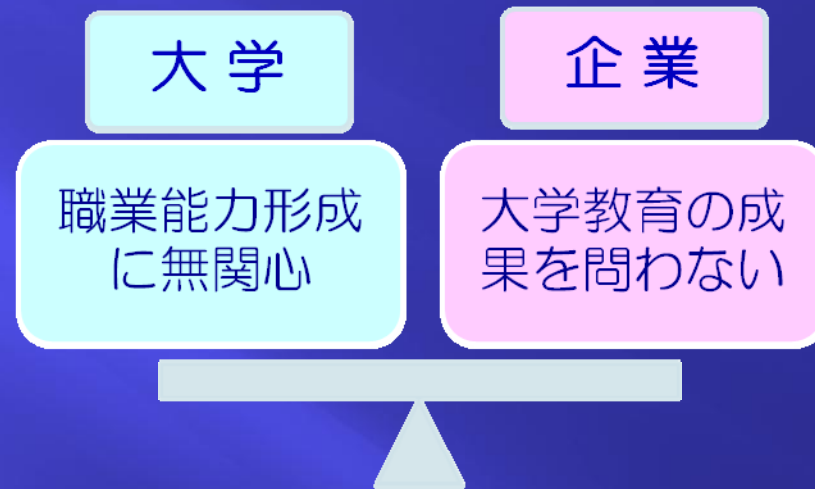


今のままでは、今後、大卒者の質が向上するとは、あまり考えられない



「いい人材がない」と嘆くのではなく、「いい人材を増やす」という発想へ
組織同士悪口を言い合うのは止めよう

【問題提起】 大学の観点



相反するものの中に成立した逆説的な親和性の上に、一見順調に機能していた

日本的雇用システムの動揺と縮減
大学教育機会の拡大(ユニバーサル化)



構造的なギャップ

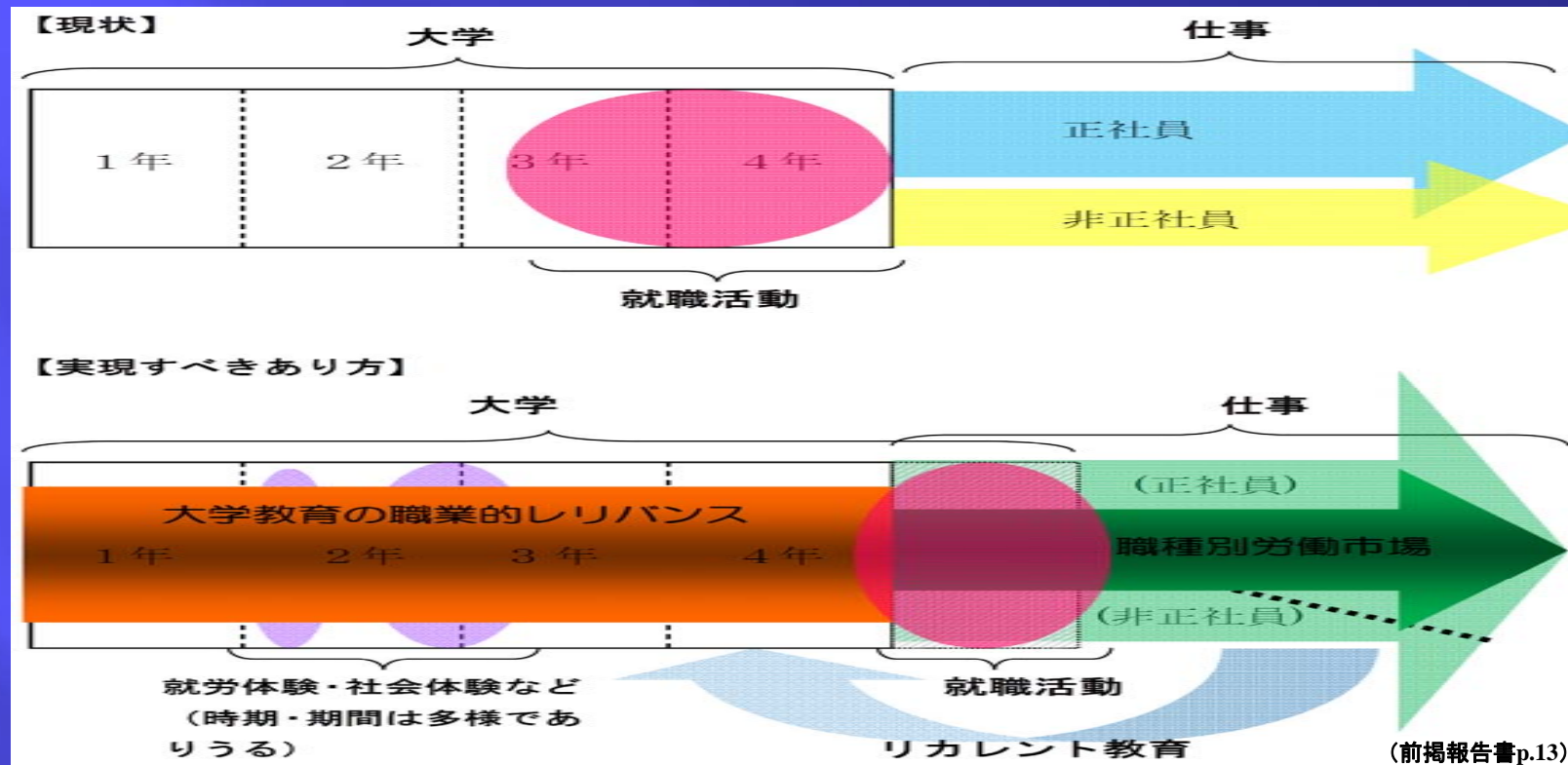
「大学と職業との接続」の機能不全



現象面の対応、焼き付け刃的な対応では無理

【問題提起】大学の観点

日本学術会議「大学と職業との接続検討分科会」の就職問題への対応



- 就労体験・社会体験は、現行のインターンシップ、ボランティア活動等と何を、どのように変えていくのか？
- 就職活動が後ろに延ばされた分、学生に就業力をつけることができるのか？
- それができなければ、結局、「職業能力形成に無関心な大学」vs「大学教育の成果を問わない企業」のまま

コーオプ教育の可能性

しかし、

コーオプ教育に取り組むには課題も多い

- ✓人、組織、経費
- ✓教育プログラムの内容と技法
- ✓企業との連携
- ✓学士課程教育への位置づけ
- ✓キャリア教育、初年次教育、インターンシップ等との関連
- ✓企業のメリット

.....

⇒これらの課題について、企業、大学が個別、単独で考え、
解決していくには、負担が多すぎる。

⇒企業、大学がネットワークし、協働作業として取り組んでいく
ことが求められる。